

読書のすすめ

「障害児の早期教育」

村井潤一編著
ミネルヴァ書房

清水美智子

「発達には教育によって促進される」というのは事実なのですが、ある時期のある面の発達を促進することが、後の発達、特に全人格的な視野からみた発達とどうつながっているのか、早期の教育効果が、長期的にみて、果してプラスに働いているのか、マイナスに働く面はないのか、という疑問は、たえず残る問題です。早期教育の推進は、とかく発達促進の性格をもちやすいだけに、私どもは発達について、基礎的にかつ広汎に学ぶことが必要だと思われま

私どもが、さまざまな発達障害児の実態やその教育のむずかしさにぶつかるとき、複雑な、そして長期にわたる人間の発達について、今日までに科学的に解明されていることは、きわめてわずかであることを思いしらされるものです。このような障害児を別わくにおいて、発達とか教育とかをとらえていると、ついある種の思いあがりをもってしまいがちです。

村井潤一編著「障害児の早期教育」(ミネルヴァ書房)では、豊かな学識と、幅広い臨床経験をもつ編著者(発達心理学者)が、障害児を含めて統一的に人間発達の理論をとらえようとされています。また発達を規定する要因としての教育(養育)の条件、経験の性質を、基礎的実験的研究の資料と臨床的実践的とりくみの

成果から、うきばりにしようとしていきます。障害児教育と幼児教育を等しくふまえた視座から、昨今の幼児教育の動向に対する疑問も随所に投げかけられています。

狭い意味での特殊教育の本ではなく、また観念的な教育学の本でもありません。なま身の個性ある人間を見失っていない——したがってそこにははっきりした人間観・発達観・教育観がうち出されている——ユニークな発達心理学の専門書として、向学心のある方々に一読されんことをおすすめします。グループでの勉強会のテキストとしてもいいと思うのです。障害をもつ幼児に関心のある方にも、ない方にも、読みやすく有益な本でしょう。

(大阪教育大学)